

品種開発から産地づくりへ～大江町発 未来を育てるすももづくり～

渡辺誠一（大江町）

1 受賞者の概要

渡辺氏は、すももを柱とした果樹栽培を主体とし、水稻や菌茸を取り入れた複合経営を実践している。JAさがえ西村山すもも部会長や大江町就農研修受入協議会（OSINの会）会長などの要職に就き、地域のすももブランド力の向上や産地を維持するための新規就農者の確保・育成にも尽力している。

2 特色ある活動

(1) すももオリジナル品種・系統の育種

課題となっていた出荷期間の短かさや端境期の解消のため、自ら育種に取り組み10種類以上のオリジナル品種・系統を開発した。これにより、7月から10月までの長期リレー出荷を実現するとともに、甘みや食感に優れた品種で消費拡大にも貢献した。これらの品種は地域ブランド化され、市場で高い評価を受けている。

(2) 生産性が高く雪害にも強い省力的な樹形の開発

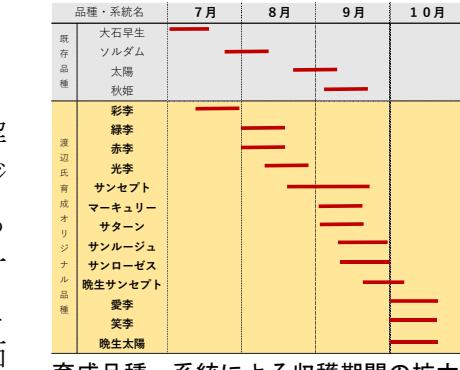
積雪の多い大江町に適した「主幹形整列樹形」を開発した。この仕立て方は、従来の「開心形」より収量性が高く、剪定も簡単で新規就農者に適しており、西村山地域では主流となっている。また、支柱の数が減り防除や管理作業が効率化するとともに、高所作業車の使用も可能となり、省力化と作業時間の短縮を実現している。

(3) ブランド力強化の取組

育成した新品種を市場に評価してもらいニーズを把握するとともに、市場との信頼関係の構築に努め販路拡大を図っている。また、すもも部会の代表としては、広告代理店と連携して商標登録や販売戦略を推進し、「山形県＝すもも産地」のブランド化を進め、西村山地域全体で「日本一のすもも産地」を目指している。

(4) 新たな担い手の育成

渡辺氏が発起人となり、新規就農者受入組織「OSINの会」を設立。これまでに26名が就農し、耕作放棄地の減少や人口増加に繋がっている。新規就農者の定着と経営安定のため、技術指導や勉強会を行い、新規就農者の育成に努めている。



育成品種・系統による収穫期間の拡大



渡辺氏と研修生

3 今後の発展方向

新品種の育成を強化し、「早生で大玉のすもも」などの市場ニーズに合った新たな特性を有する品種開発を目指す。すももの加工品開発や情報発信を通じて多様な消費シーンを提案し、すももの消費拡大を図っていく。「OSINの会」の活動を継続・拡充し、研修から就農後の経営安定までの支援体制を強化して新規就農者の定着促進を図り、地域農業及びすもも産地の維持・発展を目指していく。